

「三重県企業庁の経営に関する懇談会」の開催結果（概要）

1 開催日時

- ・平成20年2月4日（月）13時30分～16時

2 開催場所

- ・ホテルグリーンパーク津

3 出席者（五十音順）

- ・豊田由紀美 氏（Y's 建築設計事務所 代表）
- ・中川千恵子 氏（株式会社中川製作所 取締役会長）
- ・平井秀次 氏（津市水道局 津市水道事業管理者・水道局長）
- ・松浦宏明 氏（三菱化学株式会社四日市事業所 事務部総務グループマネジャー）
- ・宮地 清 氏（セントラル硝子株式会社松阪工場 工務部長）
- ・横山昭司（三重県企業庁長）

4 内容

（1）説明事項

- ・企業庁の経営状況について
- ・「企業庁長期経営ビジョン」「企業庁中期経営計画」の概要について
- ・計画的な施設改良の推進について

（2）意見交換

5 主なご意見

- ・近年内陸型の企業立地が多く見られるが、工業用水の需要への対応に困っている所も多い。工業用水の整備については、収益面で課題もあろうが、税収増や雇用の促進につながるなどの効果も考え政策的に進めてほしい。
- ・第二名神が開通し、伊賀や亀山など高速道路の周辺地域で工業用水の需要が高まってくると思われる。インターチェンジ近辺など需要発生が予想される地域への先行投資など、企業立地を見越した提案型の対応が必要ではないか。
- ・東紀州でも高速道路の整備が進むので、水力に替わるバイオエネルギーなど新規事業も積極的に検討してほしい。
- ・水道水は最低限の安全・安心の確保が大切であるが、消費者の感覚としては、よりおいしい水や健康に良い水を求めるニーズがある。企業庁の水の供給をどこに基点を置いて進めて行くかがポイントである。

- 水は世界的な問題となっているが、海水を真水にかえるなど日本には高い技術があり、渇水時にも対応できるよう技術を活用した新しい取組も進めてほしい。
- 中勢（長良川水系）の給水原価が高いなか、受給市町としては経営改善を進めながら住民へ水を届けている。施設の改良は必要であるが、組織の合理化などにより、安価な水を供給してほしい。
- 住民から水道水の臭いについて苦情があった。残留塩素が原因と思われるが、おいしい水の供給について協議の場の設定など市町と連携した取組を進めてほしい。
- 企業としては、競争力を増すため節水型の産業構造への転換を進めているので、工業用水の受水費負担の軽減に努めてほしい。現在、実際に使っている水量は契約している水量の4割程度で、契約水量と実使用量との間に乖離（空水）があり、料金負担が実際の使用量と見合っていない。今後の事業運営の中で、空水に対する配慮をお願いしたい。
- 耐震化対策など水の安定供給に向けた取組をまず進めてほしい。
- 松阪工業用水の料金は安いとのことであるが、基本料金と使用料金を合わせた料金では、水の使用量からすると実質的には2倍ぐらいの負担となっている。